

卒業論文

卒業論文はどのように書けばよいか

-卒論作成マニュアル-

タイトルを記入
サブタイトルがある場合は、
ダッシュ（—）で挟む

学年・クラス・出席番号
名前
提出日
を記入する

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎

67期Ⅲ年E組1番

立花 直樹

令和6年10月18日提出

目次

I	はじめに	2
II	作成要領	2
	(1) 作成条件	
	(2) 提出期限	
III	引用と参考文献	3
	(1) 引用のしかた	
	(2) 参考文献のまとめ方	
	(3) 図表の挿入	
IV	探究と卒業論文作成を通して	4
	参考文献	5

「I はじめに」でスタートし、本論を2～3章程度、まとめとしての終章に1章を使う。章番号にはローマ数字（I II III...）を使い、章の中の見出しにはアラビア数字（(1)(2)(3)...）を使う。

ページ番号と目次を一致させる

「はじめに」は、テーマの背景、問題提起、研究・論文の目的を含む 400 字程度の要旨（中央大学杉並高等学校国語科，2024）

I はじめに

令和6年度から始まった高校Ⅲ年生必修の「アドバンスド・プルーフ」は、附属天王寺での学びや探究を通して、社会を見る目は変わったか？という問いに答えるべく、社会課題について問題の深刻さや重大さを、根拠をもって合理的に語ることをねらった探究科目である。カリキュラムの軸には、校外研修、班での探究と発表、個人での卒業論文作成、の3つがあり、これら全てを遂行した者に単位が与えられる。

卒業論文作成にあたっては、すでに実施した校外研修と班での探究を踏まえておこなうことが望ましいが、これらがテーマや探究の方向性を縛るものとなってはいけない。自分の問いに対して自分だけの探究を進めていくことが最も重要であるからだ。もちろん、論文を書き始めたときと、書き終わる頃とでテーマや方向性が変化していることもあるだろう。自分だけの探究を通して、社会の見え方が変わることに同時に、自分自身の解像度が上がることが期待される。個人での卒業論文を作成することは、多くの人にとって初めて経験するであろう。附属天王寺で培われたアカデミックな力を存分に発揮し、卒業を迎える自分の今の記録を残してもらいたい。

なお、全員分の卒業論文は、製本したうえで図書館に所蔵され、誰もが閲覧できるようになる。あなたの論文が先行研究となり、引用文献となる日が来ることだろう。たとえ高校生であっても、論文を残すことでひとりの立派な研究者となる。

II 作成要領

章と章のあいだは1行あける。ページの変わり目にあたる場合は、新しい章を次のページから始めてよい。

(1) 作成条件

表紙、図表、参考文献リストを除き、本文のみで6000字以上。このマニュアルに書かれている書き方を遵守すること。本文の書体は原則「MS明朝」10.5ポイントを使用し、A4サイズで余白は上下左右30mm程度（Microsoft Wordの余白設定「標準」）とし、両面印刷をして提出する。表紙の文字は18ポイントとし、巻末には参考文献リストを付ける。

(2) 提出期限

項目と項目のあいだは1行あける。ページの変わり目にあたる場合は、新しい項目を次のページから始めてよい。

11月26日(火)17:00を期限とする。A4コピー用紙に両面印刷をしたものを分野の担当教員に提出する。

III 引用と図表の挿入

(1) 引用のしかた

インターネットの検索エンジンやAIを活用すれば、知りたいことがすぐに出てくる時代ではあるが、論文における引用は原典でなければならない。原典とは、調べた内容が載っている書籍、論文が基本となる。HPからの引用も可能だが、官公庁をはじめとした信頼できる機関のHPの情報を利用すること。

引用のしかたは、大きく分けて2種類ある。直接引用と間接引用だ。直接引用とは「参考

著者, 出版年, 引用箇所が載ったページ

文献に書かれている文章をそのまま抜き書きしたもの」(高橋, 2014, p. 1) で、短い引用であれば上のように鍵括弧を使って本文中に挿入し、その後に括弧を使って出典を書く。3行以上の文章を引用する場合は、次のように前後1行をあげ、2文字程度下げて文章を引用し、最後に括弧を使って出典を書く。引用する文章に鍵括弧をつける必要はない。

レポートを書く上で、自分の考えの根拠を示すために、他人の意見や理論やデータなどを借りて書くことが「引用」です。つまり自分の考えの証拠となるのが「引用」なので、レポートのかなりの部分を占めることとなります。3分の2以上を引用から(つまり自分が調べた内容)で埋めるように指示される場合もあります。(広島修道大学, 2022, p. 1)

次に、間接引用とは「要約引用であり、文献をそのまま引用するのではなく、自分の言葉で言い換えて引用すること」(筑波大学附属図書館, 2020, p. 1)を言う。次のように、要素は残しつつも、自分の意見が入らないように書く。

著者 (出版年)

伊庭 (2019) によると、探究には疑念、推論、信念という活動が含まれる。

直接引用と間接引用を上手く使い分けながら、権威ある研究者の力を借りる、貴重な研究成果を借りることで、自分の論文に説得力を持たせることが重要である。

(2) 参考文献のまとめ方

本文中で引用した文献は、すべて巻末にリストとしてまとめる必要がある。引用のしかたもそうだが、参考文献リストの表記方法には MLA スタイルや APA スタイルなど、研究分野によって使われるスタイルが複数存在する。ここでは代表的な参考文献リストのまとめ方を紹介する。

参考文献リストは、本文最終ページの次のページに作成する。著書の場合は、著者氏名、出版年、著書名、出版社を記載する。論文の場合は、著者名、出版年、記事・論文のタイトル、雑誌名、巻数(号数)、ページ番号を記載する。HP の場合は、HP 作成機関名、サイト名・記事名、URL、閲覧日を記載する。文献の順番は、著者名の五十音順、外国語の文献がある場合はその語に著者のアルファベット順とする。参考文献リストの例を巻末に付けているので、参照されたい。

(3) 図表の挿入

必要に応じて、図表を挿入してもよい。グラフは図に分類される。特にグラフにおいては、モノクロ印刷をしたときに消えたり違いがわからなくなったりしないよう留意する必要がある。

表の場合は表の上に、図の場合は図の下に、通し番号とタイトルを書く。この通し番号は、本文中で使用してもよい。本文中に挿入する際、前後は1行ずつ空ける。

前後は1行ずつあける

【構成・形式など】

- 表紙はついているか。自分の名前をきちんと書いているか。
- ページ番号はふってあるか（表紙を除く）。
- アブストラクト（I）は本体と対応しているか。
- 問いの背景（II）は本論や結論と対応しているか。
- 見出しや章立ての番号に重複や脱落がないか。
- 形式段落の始めは1文字下げであるか。
- 複数のフォントやサイズが混在していないか。
- 西暦（20●●）と元号（平成・令和など）が混在していないか。
- 書名は『 』（二重かぎかっこ）になっているか。
- ブロック引用部分は本文から1行空け、左端から2字下げであるか。
- 引用の後に文献名と引用箇所を示してあるか。
- 図表の後に参照先を示してあるか。
- 脚注のフォントやサイズは統一してあるか（10pが基本）。
- 本文の最後に文字カウントが入っているか。
例） 6452字 原稿用紙16.1枚相当
- 最後のページに参考文献リストはついているか。
- 参考文献リストの書式は一貫しているか。
- 参考文献リストは著者の五十音順（アルファベット順）に並んでいるか。

【文章の校正】

- 誤字・脱字はないか。ワープロの変換ミスは残っていないか。
- 漢字とかなの使い分けの方針は一貫しているか。
- 文頭と文末の対応はとれているか（主述のねじれはないか）。
- 長すぎる一文は含まれていないか。
- 知識のない人が読んでも、わかりやすい表現になっているか。
- 孫引きはしていないか。
※「孫引き」とは、参考文献ですでに引用してあるものを、自分の論文にもう一度引用すること。

図番号とタイトル

図1 論文作成チェックリストの例（中央大学杉並高等学校国語科，2024）

IV 探究と卒業論文作成を通して

終章には、結論、提案、できなかったこと、今後の展望や期待を書く。

探究とは何をする事なのか？研究するとは、研究を残すとはどういうことなのか？自分は何に関心があり、どんなこだわりがあるのか？自分は社会をどのように見ている、社会に対して何をしようとしているのか？

卒業論文の作成は、こういった問いに答えようとする試みと言うことができる。自分自身の解像度が高まるのが探究の大きな効果ではある。それに自覚的になっていないとしても、間違いなく高まっている。

参考文献

論文の場合：著者名（出版年）「記事・論文のタイトル」
『雑誌名』巻数(号数)、ページ番号

稲垣忠・三浦隆志・佐藤和紀・久保田航・関崎秀一（2023）「探究と個別最適な学びをつなぐ学習環境の構築と評価」『教育メディア研究』29(2), 43-55

伊庭崇（2019）『クリエイティブ・ラーニング 創造社会の学びと教育』慶應義塾大学出版会

清教学園リブラリア（2023）書籍の場合：著者名（出版年）『著書名』出版社 学園中学校

高橋祥吾（2014）「引用の作法について」https://home.hiroshima-u.ac.jp/akyah59/20140820_manners_rep.pdf（2024年9月6日閲覧）

中央大学杉並高等学校国語科（2024）「高校生のための卒業論文ガイド vol. 13.0」

<https://chusugi.jp/wp-content/uploads/2024/04/%E5%8D%92%E6%A5%AD%E8%AB%96%E6%96%87%E3%82%AC%E3%82%A4%E3%83%89-ver.13.0.pdf>（2024年9月10日閲覧）

筑波大学附属図書館（2020）「レポート・論文の書き方 ～引用・註の書き方編 その式～」

https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/sites/default/files/attach/Prism_no109.pdf（2024年9月6日閲覧）

広島修道大学（2022）「レポート・ライティング13 書式編3 引用のしかた」

<https://www.shudo-u.ac.jp/lifesupport/studysupport/htpcot0000002mbw-att/u4lua7000000021x.pdf>（2024年9月6日閲覧）

HPの場合：発行者「サイト名・記事名」URL（最終閲覧日）